武　一　中

令和３年４月２０日
武蔵野市立第一中学校
学校だよりＲ３－２号

URL:http://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

自己肯定感

校　長　　中嶋　建一郎

昨年から一中の先生全員で人権尊重教育の研究をしています。東京都の研究指定を受け、今年の 11 月 8 日には研究発表会を行う予定です。今日は、その研究内容の一部を紹介します。

まずは、裏面の資料のグラフをみてください。これは、３年前に内閣府により実施された調査の結果です。グラフに国名がある国それぞれの 13 歳から 29 歳までの男女約 1000 人に聞いています。調査項目は他にもありますが、今日の話に関係の深い「自分自身に満足している」という質問です。皆さんは、この結果を見てどのように感じますか。日本は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて 45%くらいです。それに対して他の６つの国は 70%を超え、トップのアメリカは 85%を超えています。この調査は５年ごとに行っていて、前回より日本の結果はやや下がっているようです。

この結果ですが、日本人は、理想が高く簡単には満足しないのかもしれませんし、「奥ゆかしさ」や「あまり主張しない」というような国民性も関係しているかもしれません。ですから、低いから悪いというような一方的な分析ではありません。一方、他国の人達との意識の違いを理解しておく必要があります。皆さんが大学生や社会人になる頃には、多くの外国人とともに勉強や仕事をすることになるでしょう。「奥ゆかしさ」だけでは対等な議論はできないのではないでしょうか。

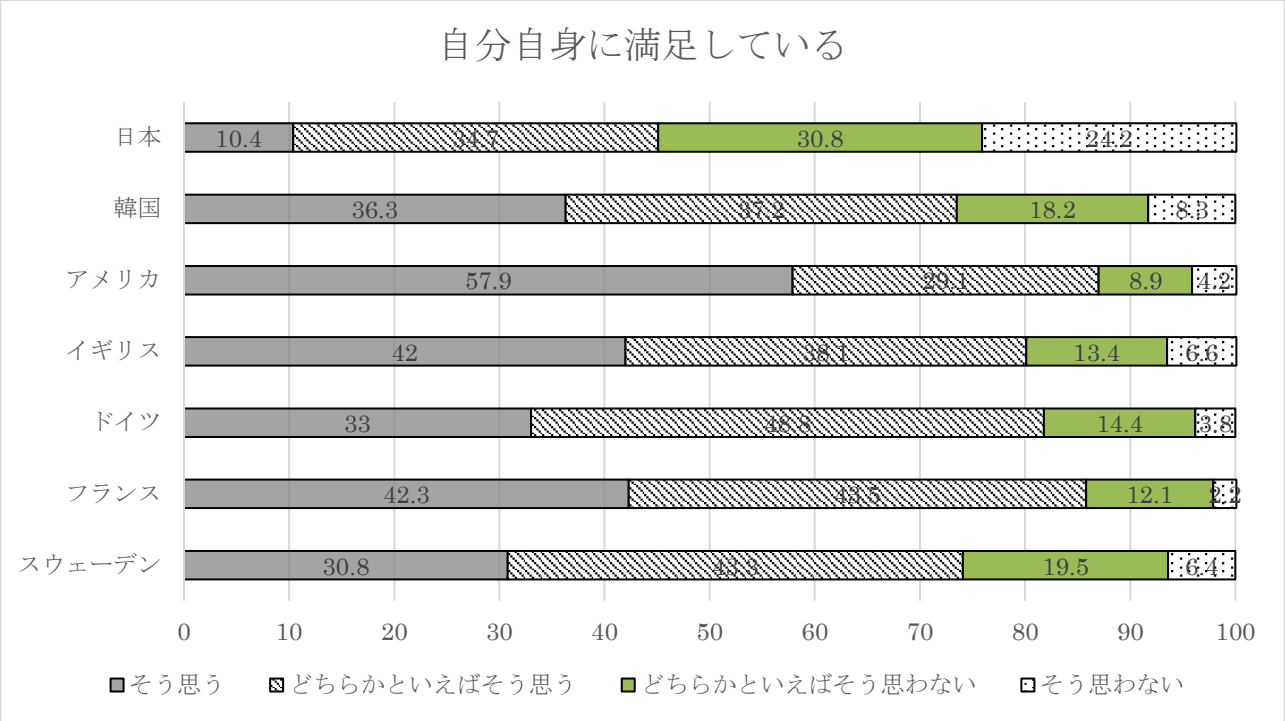
一中で行っている研究はこの「自分自身に満足している」というような質問に対して「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の答えが多くなるような教え方の工夫をしようというものです。授業や学校生活の中で、「できた」「わかった」「誰かの役に立った」と思えたら、「自分もなかなかやるなぁ」と思えて、「自分自身に満足している」も高まりそうではありませんか。

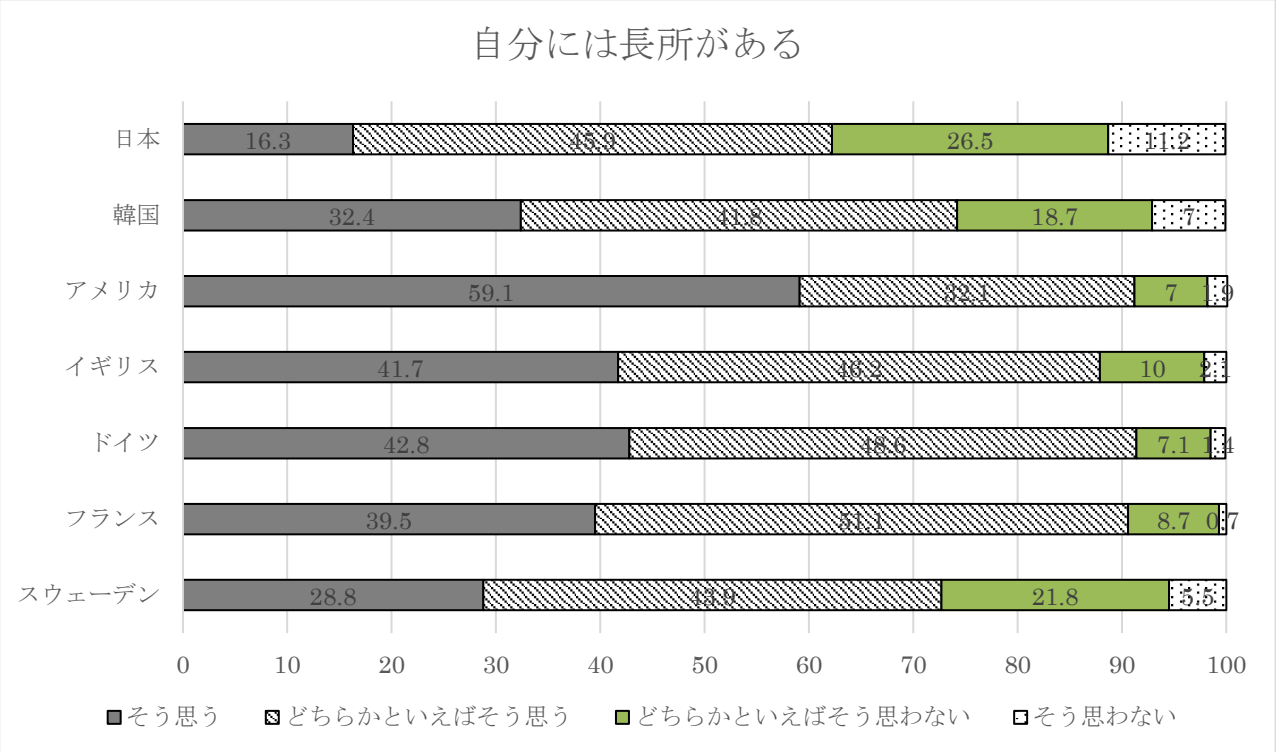
「自分自身に満足している」のように、自分のよさを肯定的に（その通りだと）認める感情を「自己肯定感」といいます。この「自己肯定感」を高めることは、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることにもつながります。そして、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになることは、人権教育の目標でもあります。

一中で行っている研究は、「自己肯定感」を高められるように教育活動を工夫することを中心に行っています。皆さんがどう変化していくのかが研究の成果となります。授業や学校生活の中で、「できた」「わかった」「誰かの役に立った」と思えることがあったら、「あっ、これは先生たちの研究かもしれない」と受け止めてください。

２０日（火）放送朝礼より

平成 30（2018）年度「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」内閣府



各国約 1000 人の 13 歳から 29 歳までの男女

朝礼では上のグラフだけでしたが、参考にもうひとつ載せておきます。あなたの長所は何ですか。３つくらいは、すぐに言えますか？